

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

団体名	あらぐさこども食堂
-----	-----------

取組の名称	あらぐさこども食堂
実施場所	あらぐさ教室
対象地域	武蔵中原駅周辺
対象地域の特色・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅に近く通勤通学しやすいことから核家族共働き世帯が多い。保育園がたくさんあり、公園が色様々のカラー帽子園児でいっぱいになる。放課後は校門前に何社もの習い事等送迎車が待機している程、子どもも大人も忙しい生活スタイルで、地域等人とのかかわりが薄い。</li> <li>・ 風紀が良い安心安全な地域。</li> </ul>
取組の趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活スタイルの様々な事情により、一人もしくはこどもだけで食事をしているケースが増えている。その食事内容は栄養バランスにかけていると想像つく。食卓を囲み、おしゃべりを交わしながら食べることで、食事が楽しい美味しいと感じつつ、人とつながりあって成長し、生きる力の構築の一助となることと、居場所になることを目指す。</li> <li>・ こどもからその保護者ともつながり、子育てを共有し楽しめるようにする。</li> </ul>
実施内容・実施スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍の当面の間は、17時30分～19時にお弁当の提供をし自宅にて食してもらっている。</li> <li>・ 第1金曜日には、バランスよい栄養価のある季節を感じられるメニューを管理栄養士を中心にボランティアスタッフと立案する。</li> <li>・ ちらしを作成し、50食のお弁当申し込みを受けてきた。</li> </ul>

参加者の年代	子育て世代 高齢者	定員 (1回あたり)	20名(コロナ禍は お弁当提供50食)
実施頻度	毎月2回	活動日数 (年間)	24日
スタッフ体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかぎ教室関係者3名</li> <li>・栄養士、調理師2名</li> <li>・調理ボランティア5名</li> </ul>		
連携する団体・ 連携の手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かわさきこども食堂ネットワークより支援情報をもらう</li> <li>・社会福祉協議会情報誌に掲載</li> <li>・町内会等住民との交流</li> <li>・教育委員会「給食食材レスキュー“レス給(キュー)”」に登録</li> </ul>		
取組実施により 見込まれた効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍より月2回のお弁当提供をしてきた。物価高騰が生活に影響しているからか、お弁当が好評なのか、口コミやネットから、月追うごとに新規申し込みが増えた。しかし、スタッフの体力が及ばず50食が限度なので、月2回利用したいところを1回で調整させてもらってきた。</li> <li>・一人暮らしの利用者は話し相手を求めて、お弁当を食べていきたいとの申し出があった。希望に答えてスタッフが共に食し、おしゃべりを弾ませ交流してきた。</li> <li>・こども食堂のCMが新聞やテレビなどで見られるようになって、様々な所の認知が広がり、支援金・支援物資の提供が増え喜ばしい限りである。運営する側だけでなく、利用する方々も、お弁当に加えお菓子や果物、米や調味料などの提供があると、とっても喜んで受け取られている。慣れてきた子どもは「おばちゃん今日はなーに？」と声弾ませて入って来て、交流している。</li> <li>・お弁当の受け渡し時のおしゃべりの広がりから、子育て教育相談があり、別枠時間を設けて話を聞いた。</li> <li>・大学受験の参考にと、こども食堂やボランティアなどについて話を聞きに来て、見事合格をすると、お礼報告に来てくれた。</li> </ul>		